

生活支援体制づくり協議体（地域包括支援センターさぎの宮担当圏域レベル）

開催報告書

|                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-----------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 開催日時                                  | 令和 7 年 12 月 19 日（金） 10 時 00 分 ～ 12 時 00 分                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 2 開催場所                                  | 長上協働センター2階 講座室                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 3 参加者                                   | 24名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 委員 11名（長上地区：4名、笠井地区：7名）、関係機関 10名、事務局 3名 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 4 協議の内容                                 | <p>1. 開会</p> <p>2. 前回の振り返り</p> <p>配布資料に基づき、事務局より前回の協議体の振り返りを行った。</p> <p>【主な意見・質問等】 特になし。</p> <p>3. 情報提供</p> <p>事例から考える担い手確保の取り組みとポイントについて</p> <p>配布資料に基づき、事務局より情報提供を行った。</p> <p>【主な意見・質問等】 特になし。</p> <p>4. 協議事項</p> <p>テーマ:担い手確保に向けて求められると感じること、大切にしたいこと</p> <p><b>協議① 地区別グループ</b></p> <p>【主な意見・質問等】</p> <p>〈長上地区〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ボランティア養成講座を開催する際に、参加者には個別に声掛けを行った。個々の繋がりを辿って担い手確保を行うことも大切だと感じる。</li> <li>・ 地域で活動している方や団体との繋がりを強化していきたい。担い手は、すぐに集まらなくても何年か先を見据えながら集めることが大切だと感じる。</li> <li>・ 家事支援のボランティアとして登録している方に、他事業への参加を促すことも有効と思われる。それぞれのボランティアが何らかの想いを持って登録していると考えられることから、その想いを可能な限り尊重したい。</li> <li>・ 某自治会では、副会長を4人体制とし、それぞれに役割を設けるとともに、会長は対外的な対応を担う体制とした。その結果、自治会長が多様な人と関わる機会が増え、自治会の活動について知ってもらう機会の拡大につながった。</li> </ul> |

- ・某自治会では、担い手確保のための声掛けとして自主防災組織が年3回行う訓練でPRしたり、祭り関係の繋がりで行ったりしている。
- ・地域には発掘されていない人材が多いと感じる。  
人づてに情報を把握したのち、声掛けをしたことで活動に結びついた例もある。
- ・町内の70歳代の方々が揃って自治会活動から身を引いている状況にあると感じる。  
世代間を取り次ぐ中間層の存在も大切だと思われる。
- ・組織における役職の引継ぎは「見える化」することが大切だと感じる。  
マニュアルにもとづく引継ぎなど、資料がデータとして残っていると引継ぎやすいと思われる。

### 〈笠井地区〉

- ・「人(の気持ち)をどう動かすか」が大切になると思われる。  
一方で、世間的にはボランティア活動の担い手になるが、ボランティアは自らの意思で自発的に行うものという意見もあり、それを他人から打診されること自体に疑問を思う方もいると思われる。  
それらを声掛けする側が留意し、担い手の確保をしていくことが大切になると思われる。  
また、組織としてもそれを支えていくことが大切になると思われる。
- ・声掛けにあたっては、実際の活動とギャップが生じないように、活動の実態を理解し、できれば体験談を伝えられることが大切だと思われる。  
また、民生委員においては一人で様々な活動を担う不安を感じる方もいるため、地区民児協があつて皆で情報共有しながら進めていく旨を説明し、不安感を払拭している。
- ・分かりやすく興味を抱いてもらえるように説明することが大切だと思われる。  
また、声を掛ける方のバックグラウンドを意識して声掛けできると良いのではないかと思われる。
- ・後継者探しを組織的に行ったことがないように思われる。  
なかなか触れづらい課題だと感じるが、大切になると思われる。
- ・自治会役員には定年を迎えた世代が多いが、若連など若い世代に声掛け(依頼)する際に、その中間くらいの年代層に橋渡ししてもらうこともある。  
そういった橋渡しをしてくれる人を探していくことも大切だと思われる。  
実際に住民懇談会の参加者もそのように探している。
- ・現在役員などを担っている人は、人間関係の中で断りきれずに担っている方もいると思われる。  
自身が声掛けされた時のことを踏まえて、声掛けの仕方を考えていくことが大切だと思われる。

- ・このような担い手確保の課題は、地区社協や自治会、民児協などあらゆる団体で共通しており、問題意識やお互いの取り組みを共有することを趣旨としたイベントを東事務所主催(東地域範囲)で開催すると貴重な機会になるのではないかとと思われる。

## 協議② 地区混合グループ

### 【主な意見・質問等】

#### 〈Aグループ〉

- ・家事支援登録者を地区社協の他の活動へも繋げられると良い。
- ・周知にあたっては、祭りのことなど身近で分かりやすい取り組みを通じて声掛けをすると効果的だと思われる。
- ・地域の各団体が集まって協議する場がなく、中学校区単位などで集まれる会合等があれば、地域でよりまとまりを持てるのではないかと感じる。
- ・民生委員の一斉改選が12月に行われ、退任者に対しては、その後も地域活動に関わっていただけるよう、個別に声掛けを行っている。  
活動に伴う負担感に配慮しながら働きかけを進めた結果、人材の確保にもつながった。
- ・時代の移り変わりに伴い、家庭や地域への参加に対する価値観も変化してきていると思われる。例えば、学校行事への父親の参加は、かつては一般的ではなかったが、現在では広く見られるようになっている。  
こうした変化を踏まえて、各自が無理なく関われる形を検討していく必要があると感じる。

#### 〈Bグループ〉

- ・某自治会では、自治会役員を依頼する際、「自治会は何をする組織なのか分からない」という不安を抱く方が多いと考えた。  
その不安を解消することを目的として、役員の任期を4年とし、じっくりと自治会活動に関わっていただく仕組みとした。
- ・某自治会では、自治会長に就任した際、次期自治会長および副自治会長を選出する仕組みを設けている。  
現在は、次期および次々期の自治会長まで決定している。
- ・某自治会では、防災訓練等の機会を活用して地域住民に民生委員の紹介を行い、誰が民生委員であるかを認識してもらうようにしている。  
地区社協についても、同様に防災訓練等の場を活用した周知が有効であると思われる。
- ・世代によって地域活動への参加率が異なり、周知方法に課題を抱えている。
- ・某自治会では、若い世代と現役世代をつなぐ中間的な世代の関与が必要であると考え、現役で就労している世代、特に50代前半を中心にその役割を依頼している。

その結果、できる限り多くの世代を巻き込む形で自治会運営を行っている。

- ・子ども会の役員に協力を依頼し、自治会活動の周知を図ることも有効な手段の一つであると考えている。
- ・地区社協の活動についても、より多くの世代の参加を促したいと考えているが、若い世代が興味を持つ企画内容を検討することが課題であると感じている。
- ・笠井地区社協が開催した歳末福祉事業の「落語会」など、興味関心の高いイベントについては、回覧板による周知でも一定の参加者を集められている現状があり、回覧板の活用は必ずしも無意味ではないと認識している。

転入者や若い世代への周知を図るためにも、今後も最低限の情報発信は継続していきたい。

#### 〈Cグループ〉

- ・自身が活動を担う時には、役職者が一気に辞めたため、引継ぎも十分と言えず当時大変に感じるが多かった。  
会長など他の役職者がどんなことをやっているのかも分からないような状況であった。
- ・活動の担い手が高齢化していると、一気に役職者が辞めてしまうこともあると思うため、注意が必要だと思われる。
- ・転入してきた若い世代なども声掛けすると活動に興味を示すことがある。  
若い世代＝地域の活動に興味がないと思わないように注意が必要だと思われる。
- ・地域の行事や、協働センターまつり、福祉の出張相談など様々な機会を活用して活動や担い手のPRをしていくことが大切だと思われる。
- ・まずは活動の見学から始めてもらうのも有効だと思われる。
- ・一人の人が多くの業務を担うのは負担も大きく、引継ぎも難しいため、チームで業務を担う体制の構築を考えている。

### 5. その他

#### ①協議体委員報酬の支払いについて

事務局より、協議体委員報酬の支払い時期について周知した。

#### ②協議体委員の任期について

事務局より、協議体委員の任期について説明を行った。

#### ③令和8年度 長上・笠井地区生活支援体制づくり協議体(第1回)について

##### 【協議結果】

日時：令和8年6月19日(金)9時30分から11時30分まで

場所：東行政センター3階 31・32会議室

### 6. 閉会

## 5 今後の見通し・ 必要な対応

今回の協議体では、事務局より「事例から考える担い手確保の取り組みとポイントについて」というテーマで情報提供を行い、これを踏まえて「担い手確保に向けて求められると感じること、大切にしたいこと」について意見交換を行った。その結果、各地区における担い手確保の現状や、担い手を探す上で大切にしたい視点・考え方について、具体的な意見が多く挙げられた。

一方で、担い手確保について地区内で継続的に話し合う場をこれまで設けてこなかったことが共有され、まずは地区ごとに課題や現状を整理し、意見交換を行う機会の必要性が確認された。

これらを踏まえ、CSWとして担い手確保をテーマとした話し合いが各地区で行われるよう、働きかけを行うことも視野に入れつつ、話し合いのきっかけづくりや進め方について支援していくことが考えられる。

また、協議体運営においては、各地区の取り組み状況や工夫点を共有する場とすることで、地区間の学び合いを促し、担い手確保に向けた具体的な取り組みにつなげていきたい。